

市町村名		南大東村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 健康診査専門スタッフ派遣渡航費用支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-2-(3)-ウ		
	福祉民生課		事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	離島・へき地医療、救急医療提供体制の確保・充実		
担当部課名	福祉民生課		事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	III-4		
事業内容	住民検診が安定的に実施できる環境整備を整えるため、特定健診等で派遣される専門の医師、保健師、看護師、検査技師等の来島渡航費用を支援する。又、検診等に使用する胸部レントゲンを2年に1度、南大東村診療所より保守管理料の1/2を使用料として折半する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,996	509	509	510	536
		(b) 予算現額	474	654	536	536	536
		(c) 増減額(b-a)	▲1,522	145	27	26	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		474	654	536	536	536
	B. 執行済額		474	654	536	536	815
	うち交付金充当額		379	523	428	428	652
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	152.1%
予算の状況の説明		検診のための検査技師等スタッフ来島渡航費の委託料は、合計815,360円(結核・肺がん検診402,240円、大腸がん検診67,540円、乳がん・子宮がん・骨粗しょう症検診345,580円)で実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	1. 胸部レントゲン使用料の折半	目標	(使用料の折半の実施)	(使用料の折半の実施)	(使用料の折半の実施)	(使用料の折半の実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	2. 検査技師等スタッフ来島渡航費の支援	目標	(委託の実施)	(支援の実施)	(支援の実施)	(支援の実施)	
		実績	委託の実施	支援の実施	支援の実施	支援の実施	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 各種がん検診実施のための、検査技師等スタッフの派遣により、継続して実施できた。 南大東へ移送するスケジュール等の確保が困難のため、胸部レントゲン車の海上移送はできなかったが、県立南部医療センター・子ども医療センタ附属南大東診療所の協力により胸部X線の撮影を島内の診療所で実施できた。 住民の健康管理及び疾病等の早期な治療予防が図れた。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(H23年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	集団検診受診率の増(35.8%以上)	目標	(325)	(320(33.3%))	(340(35.8%))	(342(36.0%))	()
		実績		530人(55.2%)	342人(34.9%)	312人(32.8%)	
	【参考指標】胸部レントゲン撮影者数	目標	()	(313(32.5%))	(320(33.3%))	(320(33.3%))	()
		実績		313人(32.5%)	420人(43.7%)	422人(43.9%)	
	進捗状況説明		令和4年度も引き続き集団検診を継続して実施することができたが、成果目標である受診率は昨年度と比較して2.1ポイント下落し、目標値の36.0%を下回り32.8%となった。				

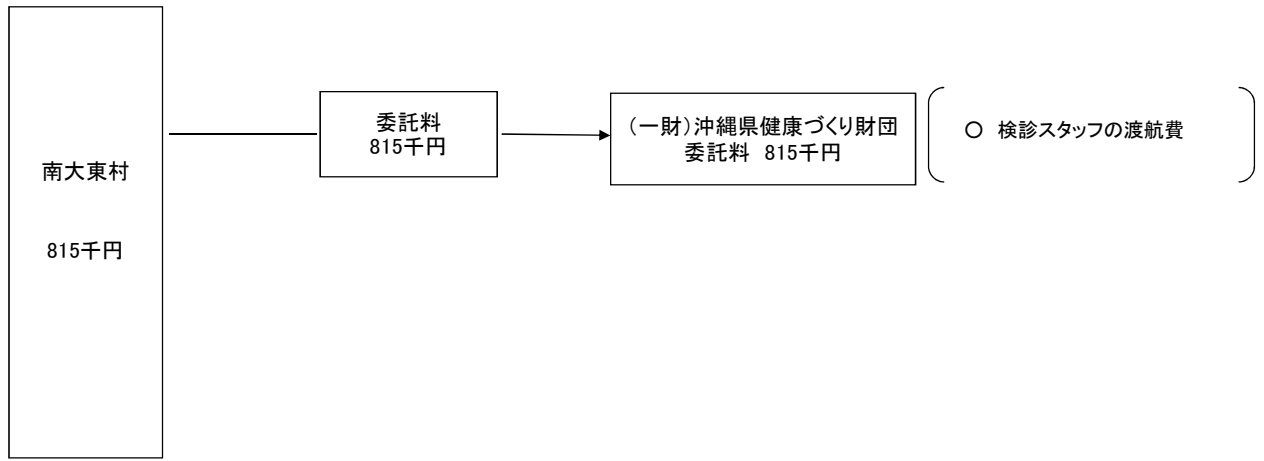
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>成果目標である受診率(36.0%以上)を達成出来なかった理由としては、受診対象者個人による時期的な要因と又、受診検診日に受診ができなかった場合は島外にて人間ドックを受診している場合が要因と考えられる。</p>	<p>例年、集団検診の対象者には毎年、本村で受診が行える旨を、広報誌や防災行政無線等とおして、場所と日程を通知し、可能な限り島内にて受診を行うよう早い段階から周知し促していく。</p>

今後の取り組み方針

本村には集団検診を受診する医療機関が未整備であるため、今後も例年どおり、集団検診と胸部レントゲン検診の実施することで、住民のがん等の早期発見、早期治療を推奨させるため、検診における検査技師等の専門スタッフの渡航費用を支援していく。又、集団検診受診及び胸部レントゲン受診の受診率向上も図りながら住民の健康増進にも引き続きつなげていき、住民1人1人の健康管理に伴う住民検診等の必要性を防災行政無線及び広報誌等で周知していく。又、比較的受診率が低いと思われる若い世代(20代~30代)への対象者にも職場等を中心に広報等にて住民検診の必要性を促し、協力を求め受診率の向上にも努めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
815	815	652	163	0



資金の流 れ、 点 検 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は沖縄県で唯一離島住民の健康診査業務を担っている一般財団法人であるため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であり、事業目的に必要な不可欠な経費である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途が事業目的に即し、検査時に書類等で確認しており、真に必要なものに限定されている。

市町村名	南大東村							
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	専門病院受診渡航費助成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(3)-ウ				
担当部課名	福祉民生課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島・へき地医療、救急医療提供体制の確保・充実			
事業内容	村内の医療機関では対応できない専門的な治療等を継続して受けられるようにするため、沖縄本島での治療、検査等にかかる渡航費を支援する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 <small>【単位:千円】</small> <small>(「交付金」+「市町村負担」ベース)</small>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,568	6,573	5,969	5,969	4,829	
		(b) 予算現額	7,978	2,633	2,628	2,717	3,482	
		(c) 増減額 (b-a)	1,410	▲ 3,940	▲ 3,341	▲ 3,252	▲ 1,347	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		7,978	2,633	2,628	2,717	3,482	
	B. 執行済額		7,978	2,633	2,627	2,717	3,142	
	うち交付金充当額		6,140	2,106	2,102	2,173	2,513	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.2%	
予算の状況の説明		当初予算では令和3年度の実績額よりコロナ禍の影響も多少緩和されることを想定し、2,112千円増額(4,829千円)した予算計上としたが、まだまだコロナ感染症対策等に伴い渡航する対象者が減少となり、実績額は▲1,347千円事業費減となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	専門病院受診渡航費助成の実施		目標 (助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)		
			実績	助成の実施	助成の実施	助成の実施		
達成状況説明		制度対象者へは、診療所または申請窓口において、直接案内できた。H27～H30年度までは概ね300件余から400件余の実績であったが、令和元年度から令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策等に伴い島外への渡航自粛等も重なり大幅に120件から130件余と減少したが、令和4年度からは受診や治療を希望する住民が20件余増えて島外への専門病院にて治療、検診及び受診を必要とする患者や付添人の全てに渡航費を助成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	渡航費支援実施による離島苦の改善(渡航費支援を要望する人への支援率100%) 当初支援人数見込:264件		目標	()	(100%)	(100%)	(100%)	()
			実績		100%	100%	100%	
	【参考指標】 支援実施件数153件		目標	()	(-)	(-)	(-)	()
			実績		131件	128件	153件	
			目標	()	(-)	(-)	(-)	()
		実績						
進捗状況説明		成果目標の件数は、令和3年度に続き、受診見込みの件数と付添人の件数は、中学生以下、認知症、障害がある者等、ひとりでの移動が困難な場合等を勘案し、見込み人数を計上した。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策等に伴い渡航を控えたため、大幅に減少したが、支援を希望する方全員へ支援を行うことができた。 制度対象者へは、診療所または申請窓口において、令和2年度は131件、R3年度は128件と大幅に減少した状況が続いてきたが、令和4年度からは受診や治療を希望する住民が20件余増えて島外への専門病院にて治療、検診及び受診を必要とする患者や付添人の全てに渡航費を助成することができた。(ただし、R2年度及びR3年度は主に新型コロナウイルス感染症対策の影響に伴うため減少と考える)。 例年どおり、診療所が「紹介状発行証明書」の発行を行い、保健センターへの提出という流れへと誘導することで例年同様、必要書類の案内及び手続方法をチラシ等で案内している。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>渡航費用の助成に係る申請において必要書類等の不備や添付漏れ等は徐々に改善されているが、未だに高齢者等を中心に不備等がみられる。</p>	<p>引き続き趣旨の制度等をわかりやすく説明した上で、家族やその他支援者等の援助等を求めるなども引き続き対策等を講じていく。</p>

今後の取り組み方針

今後も村内診療所において、専門治療及び加療が必要な患者の渡航費助成を行うことで、経済的な負担軽減により、診療治療が中断することなく、専門医療機関での継続治療を促し、健康増進に繋げる。

(1) 患者自身の判断で、専門治療渡航費の助成とならないように、適正運用に向け、書類の提出要件については今後とも同等としていく。

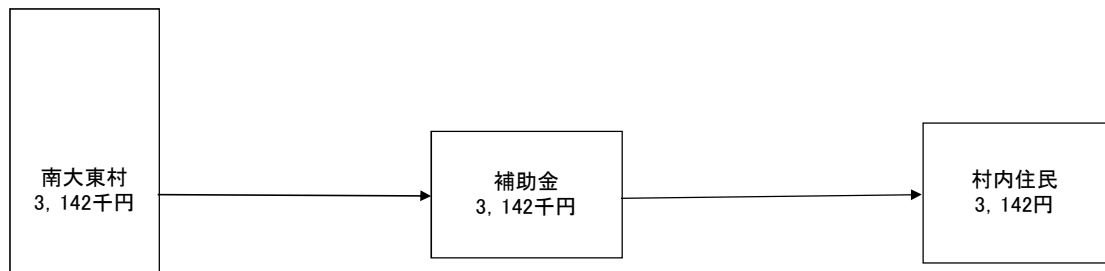
(2) 渡航費の不足など、経済的理由により受診が遅れないようにしつつ、安易な理由(検査)で受診することにならないよう、また、書類不備が生じないように、対象者へ窓口での説明や保健センターだより等広報媒体における制度説明を引き続き実施していく。

(3) 書類不備を防ぐため、家族等に合わせて説明を行えるよう役場への同行等について協力を求めていく。

(4) その他申請漏れ、添付書類等の不備による事務手続きを速やかに行うため、上記の「推進上の留意点」及び「改善余地の検証」を改めて認識した上で更なる円滑な事務処理に努めていく。又、R2年度からR4年度は新型コロナウイルスの影響により、渡航を控える対象者もいたが、それらの対策も含め、必要な対象者には島外の専門病院での治療や受診検診を促し、渡航費用等を助成していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,491	3,142	2,513	629	349



費用(渡航費及び宿泊費)の1割を利用者(患者)負担額として交付対象外経費とする。(令和4年度349千円)

南大東村内診療所での治療が難しいとする者、且つ専門的な治療を必要とする者で渡航費及び宿泊費の経済的負担を軽減することを目的に費用助成

資金の流 点 検 査 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的に沿った申請受付・審査・決定・決定通知・振込は、適正に処理されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であり、事業目的に必要な不可欠な経費である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用の1割を利用者自己負担とし対象外経費としている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

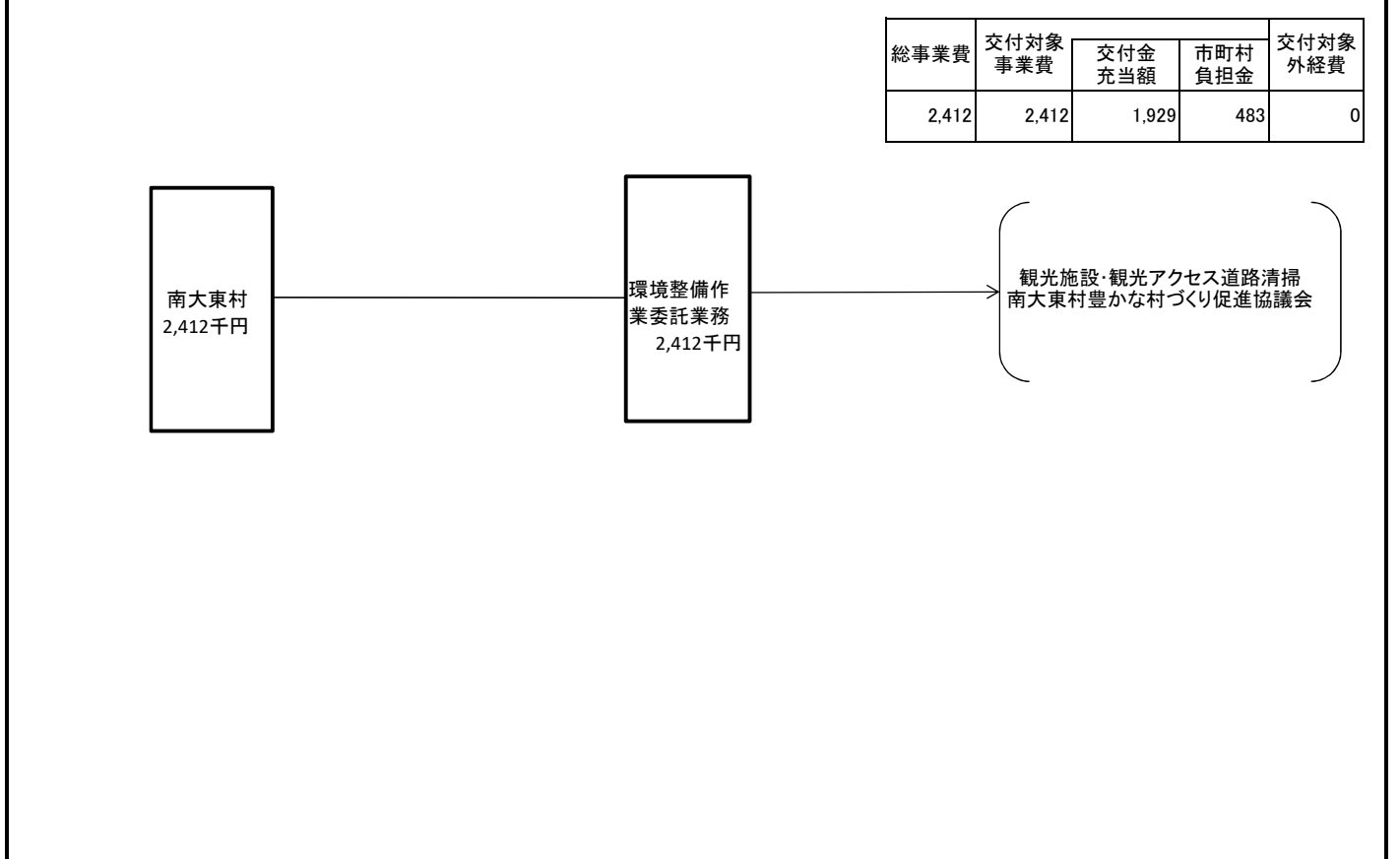
市町村名	南大東村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	花いっぱいクリーン環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-ウ	
担当部署名	産業課	事業実施(予定)年度	平成25~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	持続可能で質の高い離島観光の振興		
事業内容	観光地としての魅力向上を図るため、観光客が訪れる観光地や施設、観光地へのアクセス道路等の美化清掃を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		13,205	13,210	12,412	12,412	5,702
			13,054	12,063	13,230	9,517	5,702
			▲ 151	▲ 1,147	818	▲ 2,895	0
			13,054	12,063	13,230	9,517	5,702
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		13,054	12,063	13,230	9,517	2,412
			10,443	9,650	10,583	7,613	1,929
			0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	42.3%
	予算の状況の説明	・当初は5,702千円で予算を計上したが、美化清掃作業人員の減に伴い、委託料が▲3,290千円の実績減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	観光地及び観光地へのアクセス道路の植栽・美化清掃(観光地 11箇所、アクセス道路 3箇所)	目標	(12箇所)	(12箇所)	(12箇所)	(14箇所)	
	実績	12カ所	15カ所	12カ所	13箇所		
	達成状況説明	令和4年度は目標では、観光地10箇所、アクセス道路3箇所の13箇所において美化清掃を実施予定であったが作業員の人数が減ったため、観光地の美化清掃は1箇所目標には及ばなかった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(R1年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	観光客を対象に、観光地としての魅力向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	(満足度 70%以上)	(満足度 70%以上)	(満足度 80%以上)	(満足度 80%以上)	()
		実績	未実施	満足57% 普通14% 不満29%	満足65% 普通27% 不満8%	満足81% 普通15% 不満4%	
	進捗状況説明	令和4年度は、美化緑化されたアクセス道路が増えることで、観光地の目印にもなり、景観の向上に寄与した。更に、目的地にたどり着くまでの景観を楽しむことができる等の効果により、令和4年度は観光客の満足度が目標の80%を超えた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光地や観光地へのアクセス道路の美化清掃等は行えているが、委託先の「豊かな村づくり推進協議会」で雇用している作業員の殆どが60歳以上の高齢者であると共に年度途中で退職するなど、作業員の確保が難しくなっている。	作業員の確保が厳しい現状であるため、委託先の「豊かな村づくり推進協議会」と協議して人員の確保に努め、効率よく清掃作業の充実と更なる景観の美化を図る。

今後の取り組み方針

清掃作業等に伴う観光地及び観光地へのアクセス道路の景観と美化を図るためには、委託先である「豊かな村づくり推進協議会」と協議し、更に人員を外部委託として雇用するなどの取組を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は島のシルバー人材の活用も目的としており、高齢者を雇用を持つ「南大東村豊かな村づくり事業促進協議会」は本事業の趣旨からも随意契約で選定することが妥当であると考えている。 ○予算規模は1名あたり、平均67千円/月×3名×12ヶ月は年間約2,400千円であり人件費の観点からも妥当であると考え。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

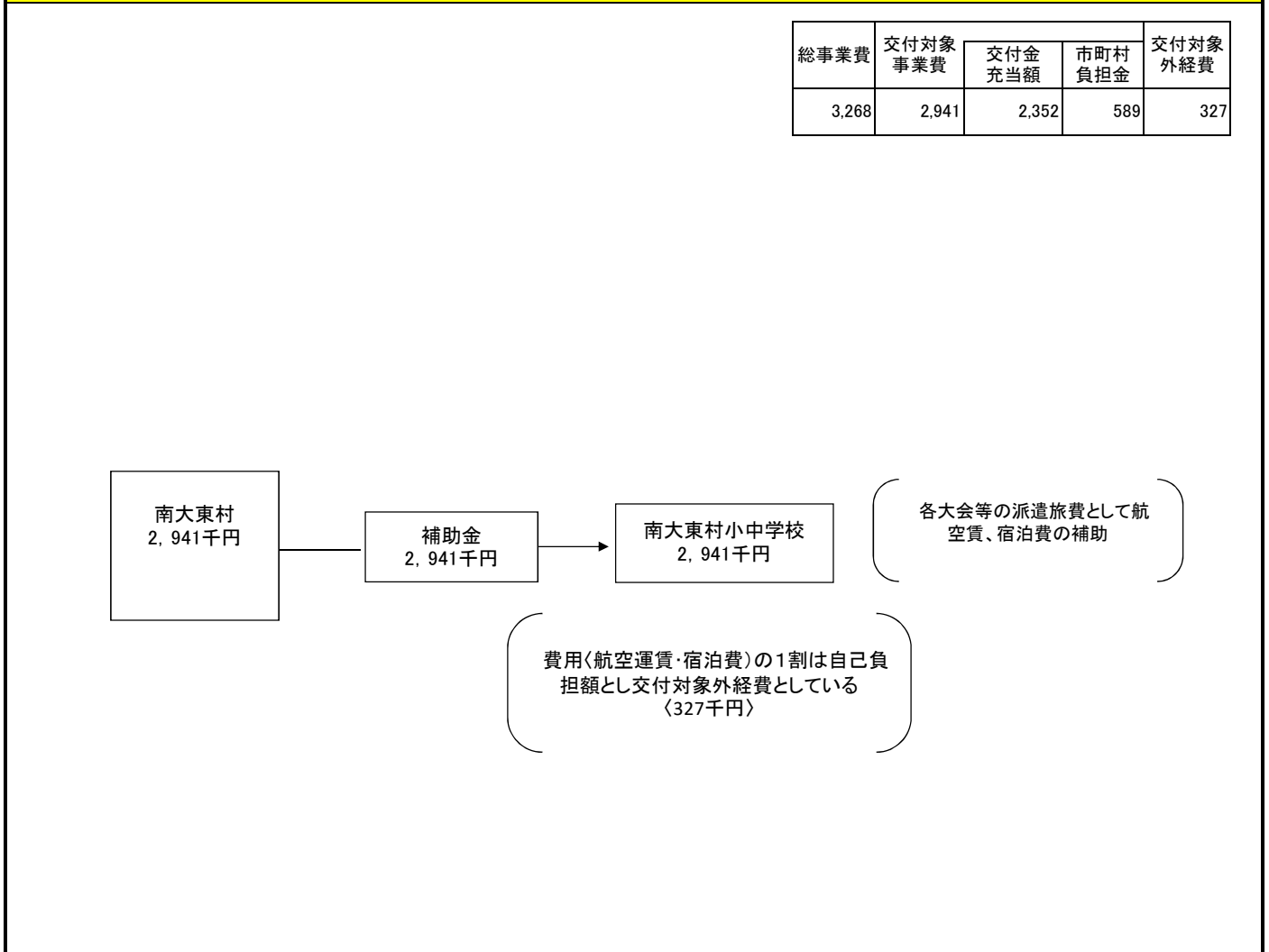
市町村名	南大東村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	人材育成派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ	
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25~令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進		
事業内容	島内の児童生徒を対象に島外で開催される各種大会の派遣費を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,571	5,857	7,250	7,251	7,189
			2,855	3,203	862	1,311	2,966
			▲ 2,716	▲ 2,654	▲ 6,388	▲ 5,940	▲ 4,223
			-	-	-	-	-
		2,855	3,203	862	1,311	2,966	
	B. 執行済額	2,855	3,203	862	1,311	2,941	
	うち交付金充当額	2,284	2,284	689	1,048	2,352	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	
予算の状況の説明	当初は体育系9大会、文化系8大会で7,189千円で予算計上したが、新型コロナウイルス感染症対策等に伴い、体育会系6大会、文化計5大会のみ派遣となり、▲4,248千円の実績減となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
		HR1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	児童生徒の各種大会派遣に対する支援の実施	目標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
実績	実施	実施	実施	実施			
達成状況説明	令和4年度も、新型コロナウイルス感染症対策等の影響により、各種大会一部が中止及び不参加となり、体育会系6大会、文化系5大会のみの参加となったが、大会派遣に対する支援の実施ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	派遣された児童生徒が広い視野を持てたか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより本事業を検証した。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		100%	100%	100%	
進捗状況説明	令和4年度も、新型コロナウイルス感染症対策等の影響により、各種大会の一部は中止及び不参加となったが、派遣補助を実施した各種大会へ参加した後、生徒達が派遣されたことにより広い視野が持てたかについて、保護者へアンケートを実施したところ、広い視野を持てたとの回答が100%であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各種大会へ派遣されたことにより、広い視野が持てたかについて、保護者へアンケートを実施したところ目標の80%を超え、100%であったことから本事業に対する趣旨と目的を理解していただいたと考える。	引き続き、大会参加の目標を100%として、日頃からの練習や、体調管理を徹底し、成果目標達成と生徒個人の成績の向上に努めていく。

今後の取り組み方針

例年同様今後も各種大会へ派遣されることでそれらの意義を見つめ、意識改革を行いながら目標を持たせていく。又、経験した結果を見つめ直し今後の判断材料としてつなげて活かせるように努めさせる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	<input type="radio"/>	支出先の選定方法は妥当か。	○児童生徒・指導者の補助で妥当であった。
	<input type="radio"/>	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であり、事業目的に必要な不可欠な経費である
	<input type="radio"/>	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金90%、個人負担10%とし保護者負担は妥当であった。
	<input type="radio"/>	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○実績報告書を確認しており事業目的に則した者であったと判断した。

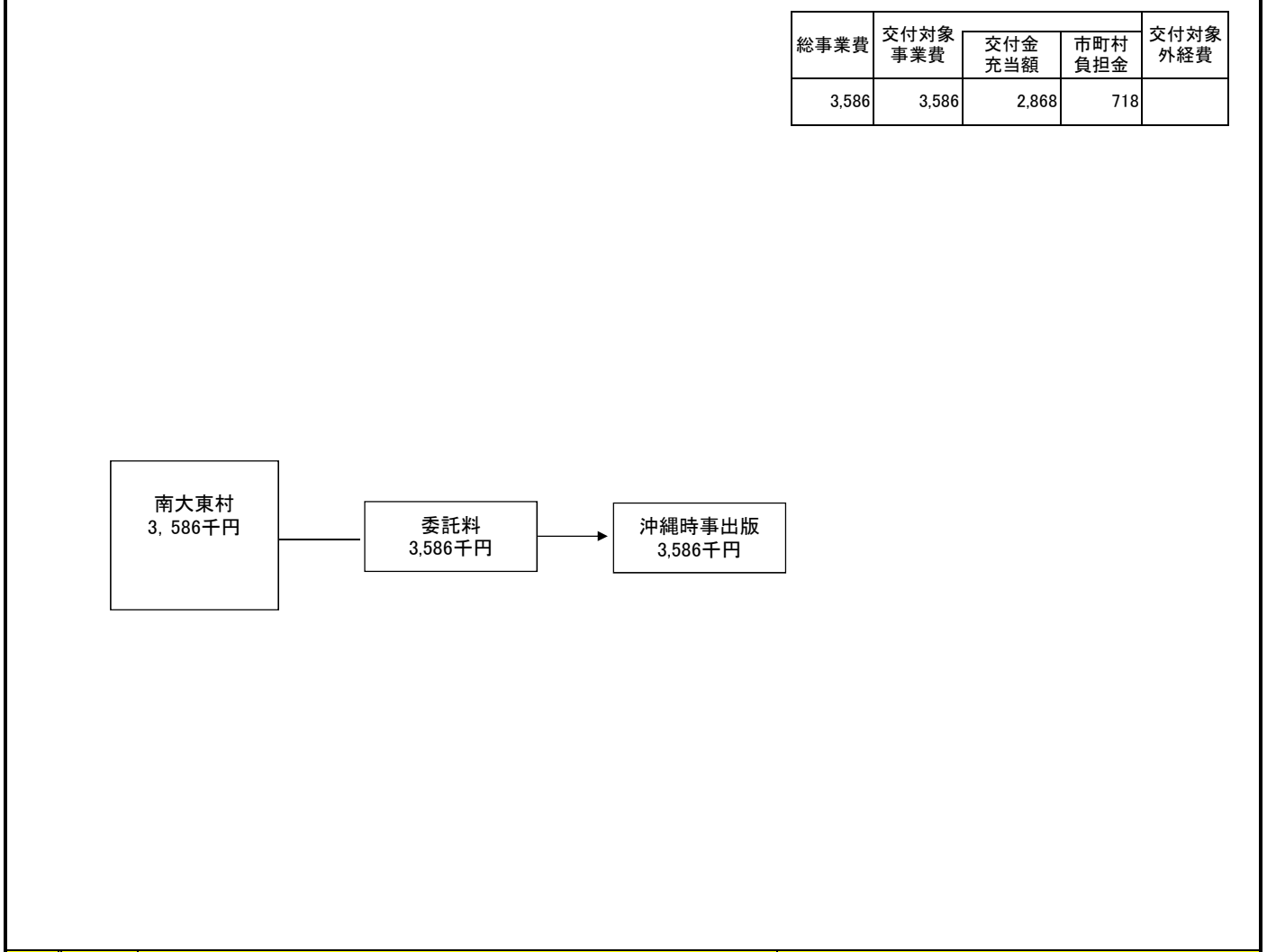
市町村名	南大東村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	南大東小学校社会科副読本編集事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ		
担当部署名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	令和4~令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	「生きる力」を育む学校教育の充実 Ⅲ-3		
事業内容	村独自の社会科副読本を作成し、地域に根差した社会科学習を行うことにより、次世代を担う子ども達へ村の歴史・文化の継承を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の 状況	(a) 当初予算額	3,700				
		(b) 予算現額	3,630				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 70				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	3,630				
	B. 執行済額		3,586				
	うち交付金充当額		2,868				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		98.8%				
予算の状況の説明		本事業は令和4年の12月補正にて3,700千円計上し、適正に予算を執行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
	副読本の編集を実施。	目標 (実施)	()	()	()		
達成状況説明	歴史や文化等において次世代への継承を図ることを目的に、副読本の編集を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値 (R4年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (R5年度)	
	副読本の編集完了	目標	(完了)	()	()	()	()
		実績	完了				
	R5年度成果目標 年度ごとに実施するアンケートで、「授業を受ける前と比べて地域の理解が進んだ」と回答した児童の割合が80%以上	目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
進捗状況説明	社会科副読本の編集完了に伴い令和5年度より小学校の授業にて活用を開始した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>遠隔離島では人口の減少等から文化の保存・継承が困難になってきているため、正確な情報を反映した副読本を編集し、次世代の担い手である子ども達の学習に活用することは必要不可欠であり、また、現行の社会科副読本(平成23年)は発刊から10年以上が経過しており、統計データや写真等の見直しが必要であることが課題となっているため本事業の推進に至った。</p>	<p>年度毎に実施するアンケートにより授業を受ける前と比較して地域への理解が得られかを検証していく。</p>

今後の取り組み方針

・副読本を活用し学習することで、自分たちの島の歴史や文化を次世代へ継承していく。
 ・副読本を令和5年度から小学校の授業で活用すると共に、アンケートを実施し、結果や状況に応じて内容を再検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であると考えます。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であり、事業目的に必要な不可欠な経費である。 ○実績報告書を確認しており事業目的に則したものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		